

《 コの字型背表紙 》の作り方と製本

ブナぶな考房 おばせ 勝義

一、はじめに

当方のホームページ「ブナぶな考房」
をご覧ください、A4用紙に両面印刷して、中綴じしたり平綴じしたりして、A5版の冊子や本を作る方々が多くなりました。



しかし、次のような質問や相談を、多くの方々から寄せられるようになりました。

- ☆1 「二つ折りしたA5判の紙束に、A4判に印刷した表紙を被せると、紙束の背の厚さ分だけ短くなり、紙束の方が出てしまう。その分だけカッターなどでカットしなければならないか？」
- ☆2 「表紙だけ少し大きなサイズのB4判を使えば良いのだが、市販のプリンタはほとんどA4判までの印刷しかできないので、何か良い工夫はないか？」
- ☆3 「中綴じ製本したら、冊子の背に本の題名などが書けなく、本棚に並べておくと分かりにくい。何か工夫はないか？」
- ☆4 「ブナぶな考房のホームページに、漢字検定試験の準1級と1級のページがあり、膨大な問題をB5判に印刷すれば練習ノートができる」とあるが、表紙はどのように作ったら良いのか？」
等々です。

1と2については、製本部数が少ないならば、はみ出た部分をカッターで丁寧にきり落とせば済みますが、部数が多いと高価な紙截断機がないと困難です。

これらのことを実現する上で、お勧めしているのが、「コの字型背表紙」です。

右の写真は、漢字検定準1級の演習ノートを作成したものです。本文も表紙もB5判用紙に印刷した紙束に、ピンク色の「コの字型背表紙」を貼りつけたものです。

二、コの字型表紙の編集と印刷

右の写真の例（B5判）で説明しますが、A5判で作りたい時は、以下B5の処をA5に置き換えればできます。

まず、**ワード**で**ページ設定**画面を開き、用紙のサイズをB5とし、**縦書きの標準設定**にします。そして、製本する紙束の背が厚い時は、文字の大きさ（フォント）を大きめにし、薄い時は小さめにしておきます。

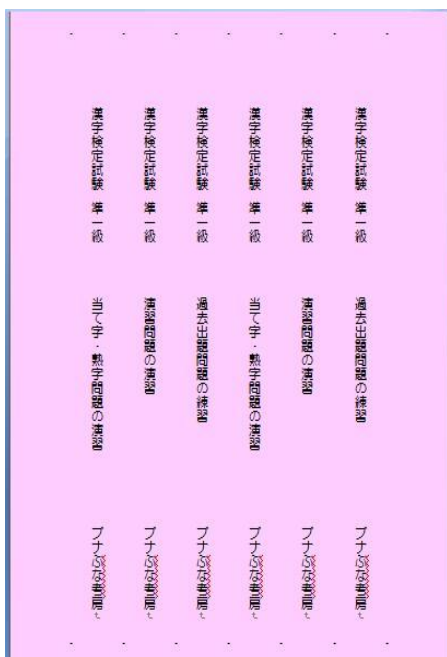
1行目の初めと終わりに、後で切り取る目安となる印（例えば「・」）を入力します。2行目に、その冊子の表題や著者名を入力します。

3行目からページ末まで、同じ入力を繰り返します。表題の文字は、本文の内容に合わせて入力していきます。ページの背景は、**ページレイ**

アウトから**ページの色**をクリックして、好きな色やパターンを選択して、表紙らしく編集します。

写真右のように編集されて、厚紙に印刷します。そして、上下の印「・」に定規をあて、カットしていきます。写真では、6個の「コの字型背表紙」ができることになります。

次に、製本する紙束の大体の厚さを測り、そのカットした紙片の文字が真中になるように注意してその厚さをとり、定規で左右から



折り曲げます。いきなり定規を当てて折っても、きれいにうまく折れません。

紙片（写真では左）の文字の部分を中心にして、紙束の厚さに相当する幅をとり、上端に左右2か所、下端に左右2か所、千枚通しで軽く刺して小さな穴で印を付けます。その紙片を裏返して、上と下の小さな穴に定規を当てて、千枚通しで、紙が切れないぐらいに、軽く2本の筋をつけます。そして、幅の小さい方に定規を当てて、幅の広い方から定規に向かって折っていきます。これで、綺麗なコの字型背表紙ができます。

右図は、切り取った紙片と、それをコの字型に折ったもの。



二、背付け製本

中綴じ製本した冊子には、そのままコの字型背表紙に、糊かボンドを全面に塗って、冊子の背に接着します。接着部分を、文珍で重しを付けるか、別のページで紹介している「製本屋さん」や「簡易製本機」に挟んで接着を強めます。

右の写真は、中綴じ製本した冊子2冊を、コの字型背表紙を使って、合冊したものです。

表題付きで、平とじ製本したような、厚い冊子に仕上がります。当「ブナぶな考房」の中綴じ製本機「なかとじ〜き」だけでも、作業がしやすく、時間的にも効率の良い、このような厚い冊子を作成することができます。



平綴じ製本（背固め製本）の表紙作りは、B4判やA3判の印刷が可能なプリンタを持っていれば、楽にできますが、圧倒的に多いA4判用

紙までのプリンタでは、厚めの冊子の表紙作りには、ちょっとした工夫が要ります。A4判やB5判サイズ用の紙では、1枚ものの表紙は本文のサイズより寸足らずになるからです。

この「コの字型表紙」を使うと、作業しやすく、体裁の良い冊子ができ上がります。右の写真の、一番下が平綴じのB5版、真中が平綴じのA5版冊子、最上段がB6版中綴じ2冊の合冊本です。



コの字表紙を使う利点は、本文と同じサイズの用紙で編集して製本できる点です。サイズが同じですから、はみ出しがなく、仕上がりがよくなります。

表紙の編集は、B5版冊子ならB5判サイズの標準設定ですればよく、A5版冊子ならA5判サイズの標準設定ですて印刷すれば良いのです。

編集のときに、「ページの色」をクリックして、表紙の全体の色やパターンを指定すれば、写真のようにきれいな表紙が印刷できます。また、冊子の内容によって、コの字型表紙の編集の時に、背景色を変えることで、一目瞭然の見分け（写真の上と真ん中の冊子）が付きまます。表紙とコの字型表紙を同じ色かパターンで編集すれば、写真の一番下の冊子のように、一枚くるみの表紙のように仕上がります。

平綴じ製本の方法は、「製本術の基本」ページや「簡易製本機の製作」ページをご覧ください。

すでに、本文と見返し紙、表紙が1冊の紙束になって、補強紙で平綴じされていますから、コの字型表紙を糊やボンドで接着するだけです。

このような製本方法は、いろいろな製本にも応用できます。薄い冊子を纏めるために、何冊も合冊して一冊の合本にできます。厚い本を手軽に読めるようにするために、分冊してそれぞれに表題の付いた、軽い冊子ができます。冊子の厚さやサイズの違いにも、柔軟に対応できる製本方法と表紙作りと言っても良いでしょう。 2009.01.30 現在